



5月14日(日)10:00~11:30 赤羽文化センター第1視聴覚室において5月例会(五十嵐郁子講師指導の手話学習会)を開催しました。今回から対面のみ開催を行い、参加者は19名でした。

今回の例文(抜粋)

★ポイント★

日本語は同じであっても、手話はその状況に合わせて表現を工夫することが大切。

- ① A 私は先天性のろうで、両耳120dBです。
B 隣の2人のおしゃべりの声がうるさくて聞こえない。
- ② A 久しぶりに新宿駅に行ったら、すっかり変わってびっくりしたわ。
B 毎日見ていると分からぬけれど、子どもは日々変化しているの。
- ③ A コロナ禍にアルバイト先を首になり、生活費のために貯金も無くなりました。
B 私は転職したばかりの会社が倒産してしまい、失業手当も退職金も無しです。
- ④ A 実家はラーメン店でしたが、昨年、父が亡くなったので店をたたみました。
B その段ボールをたたんでください。洋服もたたんで引き出しに入れてね。靴下は左右セットにしてたたんでね。



コミ男とモア子のしゅわ談義



コミ男：会員増をめざして、満足していただける方法を模索しています。手話学習に関しては手話技術のレベルがまちまちなので、先生のご指導も大変だと思いますが…。

モア子：そうですね。でも、今回の例文はよく練られた例文だと思います。同じ日本語でも、手話はその状況に合わせて表現を工夫するところが“みぞ”ですね。グループで表現の確認もできたり。

コミ男：はい。手話は繰り返し繰り返し学習することで身についていきますから、遠慮しがちな会員さんには、役員ができるだけフォローしながら楽しく学んでもらいたいですね。